

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあおいの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県薩摩川内市
記入者名 (管理者)	東 努
記入日	平成 20年 6月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく暮らしていただくために、安心と健康と幸せを願った理念としている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしく暮らしていただくために、管理者、職員共に理念を共有し、その実践に努めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者が地域で安心して暮らせるように、家族や地域の人達にも、色々な機会を通じてホームの考え方について、広報するようにしているが、まだ不十分な面もある。	○ 地域密着型サービスの役割について、広報しながら地域の人達とも協力体制作りやっているが、まだ充分とはいえない。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人達とのつき合いは、一部の人達には気軽に声をかけてもらっているが、まだ日常的なつきあひまでには至っていない。	○ 当方から声かけしながら広報に努め、気軽に立ち寄ってもらえるような、関係作りに努めるようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会にも参加し、地区の行事等にも出来だけ参加するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状では利用者への日常支援が手一杯にあり、地域への取り組みは出来ていない。	○	利用者への支援を大事にしながら、地域の高齢者の方々の暮らしに生かせるような、係わりが出来るようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの自己評価や、外部評価を通じて、内容検討しながら段階的に改善を進め、直ぐやれる事は改善した。	○	改善できていない事項等についても、少しでも改善に向けて努力したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	業務及び、概要報告と、年間テーマとして、地域の方々との連携のあり方について意見を出してもらい、具体的にサービスに取り組めるようにした。	○	推進委員の声かけで、近隣周辺の方々の訪問等、数回実施してもらっているが、今後も色々な意見をもとに、サービス向上に活かせるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	色々な機会を通じて、情報や、指導を受けるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の入居者には該当者はいないが、今後についても制度について学習する機会を作りたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、職場での学習会を行って、事業所内での虐待防止に努めるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、利用者、家族に対して説明を行い、納得してもらった上で、契約するようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付については体制が出来ており、家族とも話し合う機会作りを行い、利用者より不満等ないか聞くようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	市外の家族には、月1回の請求書発送の折、状況を報告するようにしている。来所できる家族には都度状況を報告するようにしている。金銭管理についても、出納帳の残高確認をしてもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付については体制も出来ており、色々な機会を通じて家族とも話している。相談なども受けるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回の検討会を通じての話し合いの中で、運営等に関する意見は少ない。	○ 色々な面から意見を出せるような、環境作りをしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や、家族等からの要望で勤務について調整した例はないが、状況によっては独自に調整するようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と、利用者の馴染みの関係を深め、信頼関係も生まれており、馴染みの職員による支援が出来るような配慮をしている。職員の入れ替わりが若干あっても影響のない体制作りするようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地域密着型サービスの従事者としての資質の向上のため、職場での取り組みや、研修への参加を積極的に支援しているつもりである。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者同士の情報交換程度の交流はあるが、ネットワーク作りや相互訪問等までの交流は出来ていない。今後については、事業所の質の確保からも交流や連携に努めたい。</p>	<p>○</p> <p>色々な会議、研修の場でも、相互交流について意見も出ているが、具体的に実行に移されていない。一部有志の好意で学習の機会は出来た。相互訪問の機会作りに取り組みたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>限られた少人数の職場で、利用者との密接な係わりを余儀なくされ、ストレスがかかりやすくなっていることから、職員間の人間関係を最重点的に考えながら、職員の悩みや心配事など聞けるようにしているが完全ではない。</p>	<p>○</p> <p>一人一人ともっと身近に話し合える機会を作りながら、ストレス発散についてその方向づけも考えて生きたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職場での色々な出来事については、報告を受け理解しているつもりである。事業も独立採算の中で厳しい状況にあるが、処遇についても配慮しているつもりである。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>現実は入居について本人の認識は殆どないまま入居されることが多く、入居してから何故自分はここにいるのか？から始まる生活が多い。不安や焦燥、精神不安定などから本人の思いを大切に、安心と信頼の関係作りを大事にしたい。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームへの入居相談される時は、すでにどうにもならない状況になってからの事例が殆どで、預けることへの悩みや不安を抱えておられ、家族と思いを一つにして一緒に悩み、想いを聞くようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や、見学に見えたときは、切羽詰った状況におかれたことが多く、そのケースによっては他施設や行政にも一緒になって、相談したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談の時点に本人の状況を確認しながら事前のを対応を必要とするような場合は本人同行で見学してもらったり、入居者と一緒にお茶を飲んだりしながらホームの雰囲気にも慣れてもらい、ホームの状況を理解してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が地域でその人らしく暮らしていただくために、共に暮らす中で本人の生活歴の中から教えてもらったり、支え合って生活してもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に家族とも話し合いながら、お互いの立場に立ってその思いを共有して入居者本人を支援していきたい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係にも色々なケースがあり、それぞれの立場で良い関係だけではないが本人にとってどうかを判断材料としながらお互いの立場も理解して良い関係へ向けられるよう支援していきたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より希望の聞きとりを行いながら行きたい所、会って見たい人など、昔の家を訪ねたり墓参りなど少しでも希望があれば出かけて行く機会を作るようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に支え合って暮らせるような環境づくりと、色々馴染めない人が孤立しないように、共に暮らせる楽しさを支援していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院などによりやむなく退居され、病院から退院の時期に自宅で住めない環境にある方など家族・病院のワーカーなどと共に話し合いながら、次の施設や病院を探すなど関係が続いているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの思いや希望の聞けることは、その人らしく暮らしていただけるように支援する。思いや希望の聞けない方は、その人の立場に立ってスタッフ間で意見を出し合い検討するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にも本人や家族からこれまでの情報等についても話を伺い、サービスを受けるまえの経過についても確認するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の中で本人の出来ること、出来ないことを把握しながら本人の出来る力も把握して生活の中に生かして行きたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	地域でその人らしく暮らしていただくためにも、その本人家族の思いを大切にスタッフの意見も出し合って介護計画を作成するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月おきの見直しをしながら、変化に応じて本人、家族、スタッフ等と話し合いながら、臨機応変に見直すようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の看、介護、観察記録を記入しその内容についても職員間で共有しながら日々のケアに生かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の暮らしを馴染みのスタッフが出来るだけ継続してお世話出来るようにし、安心して暮らしていただけるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームだけではやれないことを地域・公・民の力を借りて暮らしの中に活かしていきたいが、まだ取り組むとしては緊急を要することのみになっている。	○	暮らしの中にそれおれ専門分野の協力員をもらいながら多様な地域資源を併用して安らかで生き生きとした暮らしを支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外のサービスについては、行政で行っているマッサージや高齢者のおでかけ支援サービスなど必要な方については利用するようにした。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの協力については、個別支援等についての連携は今のところ出来ていないが、高齢者虐待防止に関する資料などを貰い、職場での勉強会などに使わせてもらったりしている。	○	今後、事務所のみでは、解決出来ないような困難事例等については相談しながら本人・家族にとって一番良い方法等、個別的に支援出来る体制づくりをしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し今までのかかりつけ医を続けて欲しい方には継続していきながら、専門医療以外については事務所の協力医療機関を主治医とする場合は家族の了解を取るようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>入居時より受診されていた方や、ホーム内においても専門医に往診をお願いして、治療方針や薬の処方などケースごとに調整して個別支援している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>地域にある協力医療機関の看護師には色々相談しながら、主治医を含め医療についても色々相談、支援している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者の入院にも色々ケースがあるが、ホームからも出来るだけ顔を見せるようにしている。又、家族や医療ワーカーとも連携しながら情報交換するようにしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に伴う対応について、入居に際し当ホームの方針について説明し、了解を得るようにしている。現状は、終末期に向けたサービスは医療の問題もあり、実施できていない。(重要事項説明書)</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホームの方針としては、最終的には医療にお願いしていることからターミナルケアについても現状では取り組めていない。</p>	<p>○ 今後の問題として、家族の意向等も参考にしながら方向づけとしたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームでの生活が難しくなった場合、家族や主治医等とも相談しながらケースによって、病院の紹介状や施設への入所状況等情報の支援を行い本人・家族だけが困惑しないように支援している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人のプライドとプライバシーを損ねることのないように体制づくりをしているつもりであるが、言葉かけや対応など、気付かないうちにプライドを傷つけたりしている面もあるように見える。	○ 親しき仲にも礼儀あり。もつい馴れてしまって言葉かけも本人にすればプライドを傷つけられているかも知れないことなど、スタッフ全員で常に確認するようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の暮らしを馴染みのスタッフが出来るだけ継続してお世話出来るようにし、安心して暮らしていただけるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしが、その人らしく出来るように日課は作ってあっても強制はしていない。個々のペースを通す人もあり、希望に沿って支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用・美容については希望される店があれば連れて行っているが、経済的な面もあり施設内でカットすることもある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	加齢と共に以前出来ていた方も出来なくなったりで、食材の一部準備も難しくなっている。家庭的な物が大半であるが、皆さん殆ど完食されている。また出来る方には後片付けなど一緒にやれるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今の所、タバコの喫煙だけであるが希望があれば、以前焼酎を楽しんでおられた。タバコの喫煙は食事の後に皆さんが食べ終わってから喫煙されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケースによっては、2時間置き位にトイレ誘導したりしながら、介助している。大半の方がリハビリパンツを着用されており、介助見守りの必要な方は、プライバシーに留意しながら支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の生活のリズムからすれば、夕方が一番良いのかもわからないが、入居者の中に今日脱いだ衣類を探され、ないと分かるとパニックになったりした例もあり、現在は午前中を中心に入浴してもらいその後すぐに洗濯して、夕方には衣類を本人に渡している。	○	特に希望を言われたり現状について不平不満は出ていないが、曜日や時間等を決めてやっていることから、今後の課題として検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	原則的に本人のリズムに合わせた支援で休憩・睡眠等してもらっているが、それに乗れない人もあり、逆に声かけ、誘導しなければ一日中眠りこける人もあり、個々に合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った役割を持ってもらうことで、自分の存在感を認識出来、そのことが暮らしの中で自信を持てるようにしている。リーダーシップを持ってもらう人や、それぞれの持てる能力で役割をお願いするようにしている。無理強いしないようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度管理出来る方には、少額の金銭を所持してもらっているが、ほとんどが預かっている状態である。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特別な予定を組まず、天候にもよるが快適な日などは戸外に出て外気浴・散歩などするようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の思い出の場所や、逢いたい人、行って見たい所など、本人の希望を中心に出かけられるように支援している。墓参り、病院見舞い、帰宅・施設・面会など。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書けるような人は限られるが、出来るだけ書いてもらいFAXで送ってやったりしている。又、家族と電話で話すことにより落ち着いてもらったり、喜んでもらいながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お客さんが来ることをとても喜んでらっていることから、家族にも出来るだけ面会をお願いしている。居室でお茶を飲んでもらったり、ホールで一緒に湯茶接待するようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	状況によっては、家族に報告しているがホームの方針として身体拘束はしないことにしており、行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	殆どの出入口はオープンにしてあり、正面玄関も自由に入出入り出来る様にしてある。但し、入居者の状況によっては危険阻止のため施錠することもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の言動や表情など観察しながら安全に配慮している。夜間の巡視も2～3時間おきに実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や薬などは所定の場所に保管するようにしている。花園や庭いじりの道具などについてはスタッフと一緒に使用するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事時の誤嚥防止の見守りや、服薬については、配膳時に直接渡して飲んで貰っている。服用できない方へは直接服用介助している。転倒事故防止については全員気をつけているが、残念ながら発生している。	○	転倒事故の防止については全員気をつけているが、夜間・早朝に集中している為、夜勤帯での発生防止について学習も実施しているところである。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	必要に応じた勉強会等行っているが、定期的には、実施できていない。	○	事故等想定した初期対応についてはその場その場に応じた勉強会等実施した。定期的な訓練等実施できていない。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでの防災訓練等、年1～2回実施しているが災害発生時において周辺の方々に協力依頼はしている。自治会の防災担当者にも直接協力お願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人のケースにもよるが、リスクに関しては家族との信頼関係が重要であり、かねてより関係作りをしながら、自由に暮らしていただく表裏に、リスクが潜んでいることも理解してもらうようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックと、様子観察、入浴、トイレ、介助を通じて、特別な変化には気をつけており、異常に気がついた者が報告連絡し、対応するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬品カードを添付し、随時確認できるようにしている。又、臨時に処方された場合は、連絡帳、勤務引継ぎ時、報告するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主治医と相談しながら出来るだけ下剤等は控えるようにし、その対応をお願いしている。身体を動かすようにしながら、水分、食事等も工夫するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔洗浄、自分で出来る方には声かけ、見守りしながら出来ない方への洗浄介助、うがいをやってもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状態から本人の希望も聞きながら、摂取量など検討しながら食べてもらっている。作る料理は、家庭的な物を中心に、好き嫌いなど確認しながら季節に合った材料で調理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節による発生状況を、通知等により、情報収集した場合は、都度対応について勉強会、資料等掲示して、身近なものとして予防啓発している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な材料確保と生活の場として清潔・衛生に気をつけ、まな板、包丁などの用具は塩素系消毒液にて消毒している。又乾燥器にて高熱消毒するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者ほか皆にとって、親しみや安心のえられるような場所として、庭から玄関周りまで草花など植えたり、親しみがもてるように心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場が利用者にとって居心地良く過ごせているか、表情など観察しながら、光や音などの調整するようにしている。テーブルには季節の花を飾り、季節感を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでの隣同士のお話や、ゆっくりテレビを見たり、玄関前の庭を眺めたりと、自由に過ごしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良くプライバシーに配慮しながら、自分の部屋として、使い慣れた物や心の安らぎの得られるような物を持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の様子も観察しながら、まめに換気を行い、温度調節も、体感と、温度計で確認しながら、外気温との差も大きくならないように調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助の必要な方も、少しの介助で行動できるように、トイレや浴室など手すりや補助具使用においても、必要に応じて個別に設備を整備し、出来るだけ自分で行動できるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室が分かるように入り口に名前と写真を表札代わりにしたり、トイレ前にも案内書きをしたりしている。それでも認識できない方は、誘導するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの玄関前や周囲に草花を植えて、水やりや草取りなど体調に合わせてやってもらっている。玄関先で外気浴などしながら草花を眺めてもらったりして楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭の延長であり、施設色を少なくし、隠居に来たような感覚で過ごせるような支援を目指しています。